

## 牛群検定通信 No89

### ～子牛の生産状況～

子牛を損耗していませんか？初妊牛の高値が続いていますので、貴重な子牛を損耗することなく、元気に発育させることが求められています。この9月から新しい検定成績となる「年間子牛生産状況」を、検定成績表の裏面に表示開始しました。子牛の死廃等を知ることができますので、是非ご活用ください。

#### 1 年間子牛生産状況の概略

##### (1) 表示位置

検定成績表の最終ページの裏面に表示されています。

##### (2) 表示内容

検定日の前々月の末日までの1年間に報告された分娩および出生状況が表示されます。例)平成29年9月5日検定であれば、平成28年8月1日～平成29年7月31日に産まれた子牛の状況が表示

#### 2 内 容

### (1) 牛群検定における分娩状況

子牛の品種を問わずに、すべての分娩等報告を集計したものです。子牛を損耗させる要因となる双子、死産、難産、早産、流産の発生状況を表示しています。特に死産が5%を越える場合は、分娩房などの分娩管理を見直す必要があります。

「推定新生子牛早期死亡」は、出生後1週間程度で、耳標装着前に死亡したと推定される子牛の状況です。分娩管理、保温、初乳給与等に課題があると5%を越える大きな値になります。

### (2) 乳用子牛の生後1週間／1カ月までの管理状況

前述と異なり乳用子牛のみの状況です。個体識別（耳標）における出生報告を元にしていきますので、牛群検定未加入の子牛であっても集計されます。

♂雄子牛：生後1週間程度でのヌレ子出荷されている場合は、異動にカウントされます。また、雄子牛であって死亡させる例が多ければ、やはり子牛の管理が悪いこととなります。生後1カ月については、ほとんど出荷されてしまうので非表示としています。

♀雌子牛：生後1週間または1カ月程度で哺育センター等に異動させている場合は異動にカウントされます。生後1週間での死亡と1カ月の死亡は原因が異なる場合があります。生後1週間死亡では、分娩管理、保温、初乳給与等に課題があることが多く、生後1カ月死亡では、発育不足、換気不足、自己免疫（胸腺）が十分に機能していないといったこと等も原因となります。

### (3) 自家生産牛の比率

みなさんの牧場で産まれた牛が、現在の牛群で何頭活躍しているか示しています。育成牧場に預託された牛も自家生産に含まれます。